



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

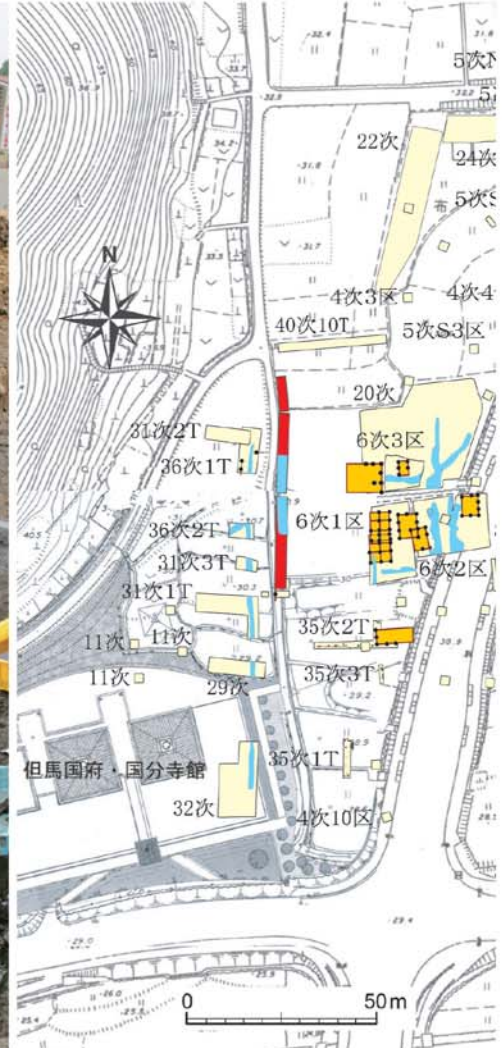
2009.12 第18号

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669 5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



木簡を掘り出す（祢布ヶ森遺跡第41次調査。平成20年5月4日撮影）



祢布ヶ森遺跡第41次調査の位置 (S=1:2,000)



第19回企画展

よみがえる但馬国府

—祢布ヶ森遺跡出土木簡から—

祢布ヶ森遺跡は、延暦23年（804）に移転してきた但馬国府跡と考えられる遺跡です。昭和48年以来、40年近くにわたる継続的な発掘調査では、数多くの成果を挙げています。

そのうち、平成20年（2008）5月におこなった第41次調査では、200点を超える木簡が出土し全国的な注目を集めました。木簡の内容は多岐にわたり、平安時代初期の但馬国府の機能・活動の実態を示すもの

や、日本初となる中国最古の詩集『詩経』の内容を記したものなど、貴重な資料ばかり。

この度、奈良文化財研究所の全面的な協力を得て、保存処理や写真撮影などの整理作業を終えることができましたので、出土木簡を一堂に会した展覧会を開催します。木簡は非常に脆弱な資料であり、本物を見る機会はほとんどありません。この機会に、1200年の時を経て姿を現した木簡をご覧ください。

にょうがもり
 祢布ヶ森遺跡第41次調査の成果

民間の店舗建設に伴い、平成20年5月に但馬国府・国分寺館の北東に隣接する土地を発掘調査しました。それが、祢布ヶ森遺跡第41次調査です。調査の結果、南北19mの規模の濠状遺構を検出しました。調査面積が狭く「濠」かどうかは分かりませんが、土の堆積状況から絶えず水が流れる溝などではなさそうです。遺構の中からは200点を超える木簡が出土しました。1つの遺跡から出土した木簡としては兵庫県最多。木簡の内容は多岐にわたりますが、当時の但馬国府の姿を彷彿とさせる貴重な資料となりました。



木簡の出土状況



木簡が出土した「濠状遺構」(南から)

漢籍を記した木簡

祢布ヶ森遺跡第41次調査で出土した木簡で最も特徴的な点は、漢詩などの漢籍を記したものが多数見つかったこと。中でも、日本で初めてとなる『詩経』(中国最古の漢詩集)の内容を記した木簡などからは、平安時代初頭の役人が懸命に漢詩を学んでいた姿がよみがえってきます。

出土した木簡群の主要な年代である平安時代初頭は、漢籍受容が積極的におこなわれた時代。地方官衙における漢籍受容の高まりを感じることができる貴重な資料となりました。ちなみに、弘仁4年(813)～弘仁7年(817)まで但馬守を務めた良岑安世は、淳和天皇の勅で漢詩集『経国集』を編纂し、『凌雲集』『文華秀麗集』などに漢詩を残す人物。但馬における漢籍受容を考える上で、彼の存在は無視できないでしょう。

Topics 最古の漢詩集、『詩経』

今から約3000年前、西周の時代に孔子が編纂したとも言われる最古の漢詩集です。中国で漢詩が盛んになる漢代ですら『詩経』は古典にあたり難解だったため、多くの注釈書が作られました。代表的な注釈書は後漢代に鄭玄が著した『毛伝鄭箋』という書。同文の注釈が見られることから、第43号木簡は『毛伝鄭箋』に基づく習書と考えられます。



雪猶寒

漢籍を記した削屑 (80号木簡)
 *実物大



漢籍?を記した木簡 (117号木簡)
 *実物大

此人汝入山林



『詩経』の注釈文を記した木簡 (43号木簡)
 *実物の3分の1

木簡その後

木簡は、文字を削ることで何度も使うことができる「エコ」な素材です。しかし、いずれは廃棄する時がやってきます。木簡を処分する方法はさまざま。竈に薪の代わりとして入れたこともあるでしょう。篝火(今のトイレトーパー)として、トイレに捨てられた木簡もあります。祢布ヶ森遺跡出土木簡の中にも、多くの削屑があることから、何度も削って再使用したことがわかります。また、廃棄の際に意図的に折ったものや、文字を墨で抹消したものなどが見つっています。さらに、木簡としての機能を終えた後に、別の木製品に加工されたもの、松明や焚き火の燃えさしとして使われたものもあります。

いずれにせよ、無駄にせず最後まで使うという古代の知恵を感じることができます。



上
□□□
〔石カ〕

文字を抹消した木簡
(110号木簡)
*実物の2分の1



家人人

上端が焼損した木簡
(31号木簡)
*実物の2分の1



□□□
〔郡カ〕

木簡を整形して作った
付札(52号木簡)
*実物大。



典尚従三位五百井女王

「五百井女王」と書かれた木簡(23号木簡)
*実物の2分の1



交
□□
〔易カ〕

(56号木簡)



□
〔丸カ〕

(58号木簡)



□
長

(84号木簡)



□□
〔浄カ〕

(8号木簡)

さまざまな削屑 *実物大



23号木簡の裏面。刃を入れて切断している。

Topics 五百井女王

五百井女王は市原王の子で、母は光仁天皇皇女の能登内親王という皇族。「従三位」という位は、当時の但馬国司よりもはるかに高く高級貴族と言えます。

五百井女王が従三位の位にあったのは、大同3年(808)～弘仁4年(813)。木簡はこの4年余の間に書かれたものです。冒頭の「典尚」は、天皇の秘書と言うべき重要な役職である「尚侍」の誤記と考えられます。

お知らせ

■ 企画展講座「木簡からみた但馬国府」

日 時：平成22年1月23日(土)

午後1時30分～3時

場 所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

講 師：当館学芸員

定 員：40名

*聴講無料(企画展の観覧は有料です)。事前申込みも不要です。

■最新情報はホームページもご覧下さい。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■休館日 水曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)
12月28日～1月4日

■入館料 大人 500(400)円
高校生 200(150)円
小中学生 150(100)円

* () は20名様以上
* 県内小中学生は無料
* 65歳以上の方は半額



ホームページ QRコード